双松会会報

第26号「双松会」通巻30号「松高北高同窓会報」通巻30号
発　行　松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内　双松会事務局　TEL：21－4888・21－0655
FAX：21－4977
印　刷　株式会社島根県農協印刷　TEL：21－3476

青春グラフィティー Vol.3

夢のような三年間

第20期（昭和44年卒）

渡辺　悟

「ボクは君らを斬る！」。T先生が言い放ちました。

T先生のお宅にいつものように悪童たち七、八人がたまってガヤガヤやっているうちに話題が大学紛争になり、我が北高にも学園封鎖といった事態が波及するのではないかということになったとき、この発言が飛び出したのです。

「ストに加担した者は斬る」と。

剣道の達人でしたし、日本刀も持っていそうだし、思想的にもそれくらいはやるだろうとみんなにやにやしながらやり過ごし、酔眼朦朧となった先生を寝かしつけて何人かが帰宅し、何人かがそのまま泊まりました。

翌朝、頭が上がらないまま先生は言いました。「今日は自習にする。みんなにそう言っといてくれ」。

大変に明解で美しい授業が流れるのは残念でしたが、誰も異論を唱えず、自習になりました。

その夜もまた少しメンバーが変わりながら七、八人が集まり、また文学論、政治論になり、深更に及んで誰も追随し得ない、天馬空を行くごとき先生の独自の世界が繰り広げられるのでした。三島由紀夫、太宰治、会津八一、そして突然の軍歌……。

帰って来ない我が友を探してお母さんがT先生のお宅に来たこともありました。玄関先で息子に再会した母親は、志望大学に合格した連絡が東京からあったことを告げると、また帰って行きました。

私は彼と同じ大学を受験し、それから二日後に合格発表があることを思い出し、帰宅することにしました。

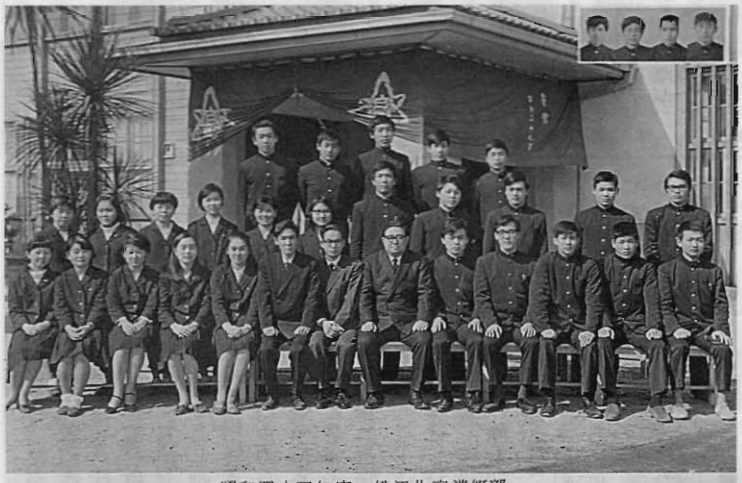
これは北高三年生後半の頃の様子です。それもごくごく断片的な思い出で、T先生のお宅だけでなく、学校や友人宅、さらに我が家で起きたことを書き出せばキリがありません。本欄を現役北高生諸君が読む可能性を考慮すると、いかに当時の我々が「清く正しく」「ハメをはずした」か、具体的に記述することを残念ながら憚らざるを得ません。

いずれにしても夢のような日々でした。その三年間が終わった後、百人ほどが東京に出たと思いますが、今度は東京で夢のような日々が再現されました。私より四年前に北高を卒業した兄はそんな我々を見て「お前らは松江をそっくり東京に持ち込んだ」と皮肉まじりに言ったものでした。

もちろん、それぞれ次第に新しい世界、新しい人間関係の中で歩き始め、松江的紐帯で結ばれた人間関係は拡散し、希薄化していきました。

美しき日々は茫々とした過去に行ってしまったわけですが、選抜高校野球大会に北高を選抜するかどうか、いろいろ協議が重ねられていた際、北高に関するデータを集め、実際に足を運んで取材した記者が同僚に向かってこう言っているのが聞こえました。

「おい、まだ日本にこんな旧制学校みたいな雰囲気残しているとこがあるんだなぁ」



昭和四十三年度　松江北高漕艇部　1968. 3.8

ごあいさつ

会長　松本幹彦

第二次世界大戦に敗れて今年で六十年。干支が一巡して終戦の年に産声をあげた人たちは今年還暦を迎えます。双松会で言えば、昭和三十六年四月に入学した北高生、すなわち松高十五期の方々の多くが該当します。実はこの年から生徒数が二千数百人という過大規模の学校となったため、松江高校は、南北の両高校に二分化されたのでした。

明治九年、教員伝習校変則中学校として殿町に誕生した母校は、学制改革や諸般の事情で校名や校地は幾度も変わりましたが、これまで三万有余の有能な士を各界に輩出して今日に至っています。そして、来年は創立百三十周年という記念すべき節目の年を迎えます。先般の幹事会で、記念式典を来年十一月十八日㈯に開催することが決まり、今後、常任幹事や各期幹事を中心に実行委員会を立ち上げて、具体的な内容を検討してまいることになりました。詳細は来年度の会報でご案内いたしますが、お誘い合わせのうえご参会いただいて、皆様のお力で活気にあふれる意義深い式典にしてくださるよう願っています。

本会では、これまで五年ごとに同窓会名簿『双松』を発行してまいりました。同窓会名簿、あるいは毎年発行している会報は、会員相互の連携、組織の維持・発展のために欠くべからざるものであり、今後もぜひ継続してまいりたいと考えています。ただ、この度の名簿発行は、今年四月に施行された「個人情報保護法」への適正な対応、あるいは、今秋にはほぼ完了すると言われる市町村合併に伴う住所表示の変更などを勘案して、一年遅れにはなりますが、来年度に発行することにいたしました。個人情報の収集・利用・管理などにあたりましては、法に従って厳正に行ってまいる所存でございますので、調査には格別のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様がお元気でご活躍なさいますようお祈りし、百三十周年記念式典には多くの皆様がご参加くださいますよう重ねてお願いしてあいさつといたします。

編集局だより

会報担当幹事報告

第16期　金平　憲

この度、会報担当常任幹事会の座長を務める事になりました、金平と申します。こんな重責は百年早いと固辞したいと思っていましたが、先輩方にうまくあしらわれました。宜しくお願いします。

「双松」は殆どの記事が報告事項等で決まっている分、皆様にどんな事をお伝えすべきか、十数名の校内、校外幹事で会を重ね悩みました。初めての事ばかりで、取り敢えず体裁は前回を踏襲しよう、そして会員の皆様のこの会報についてどのような記事を載せて欲しいか等、ご希望、ご意見があれば是非お聞かせ願いたいという無難な事になりました。ホームページを作って皆さんの声を聞こうやとの案も出ましたが、どこに設置するのか、返事を誰が書くのか、予算は等々、我々には課題が多く、この事も会員には、詳しい方がいらっしゃる筈だから尋ねてみようという事になりました。ご意見や双松のホームページ作りの妙案があればお聞かせください。この「双松」が卒業された皆様方と北高との年一回の情報交換の場です。色々な情報をお寄せいただきますようお願いを申し上げます。

皆様のご協力でより良い会報を作って行きたいと思います。宜しくお願い致します。

松籟（しょうらい）

第13期（昭和37年卒）
芦田　昭充

私は昭和三十四年四月、松江高校（当時）に入学、同時に陸上競技部に入部した。一年上に宮田さん、中野さん、同期に小川君という優秀な選手がいた。宮田さんは全国インターハイの三段跳びで入賞された。中野さんは、短距離走者として大変素質に恵まれた選手だったが、残念ながら途中で退部された。小川君は、一度社会に出て入学したので、実質一年上であったが、分厚い胸でジャンプ力もある短距離ランナーだった。

ライバル視するのは失礼にあたるような人たちだったかもしれないが、日々の練習でさえ、負けたくない存在だった。私は、練習で手抜きすることなど考えたこともなく、毎日が正しく真剣勝負の連続であった。

一方、益田産業高校という強力なライバル校があった。特に登健選手を擁する八百メートルリレーは大変強かった。私が二年生の時の中国五県インターハイでは、松高一位、益田産業二位。その瞬間、松高の記録は、全国ランキングのトップに並んだと記憶している。そしてその年、全国から六校しか残れないインターハイ決勝に、島根県勢から松高と益田産業の二校が入るという活躍で、関係者の注目を浴びた。ライバルがいて、日々研鑽し、高い目標を立て、相互に磨き合うことで、双方が、より高いレベルに達することができたのだろう。もちろん、学内・学外を問わず、ライバルの存在をうまく活用して、競争心をたくみに引き出してくださった兼折先生、大熊先生の優れた指導力のお陰でもあった。

現在私は、商船三井という海運会社に勤務している。ライバルという存在は高校の陸上部の延長でもあるような気がする。同期、先輩、後輩、キラ星の如く才能に恵まれた人たちに出会った。それぞれ異なる才能を持っており、圧倒されるような感じを受けた。同期を中心にしてよく酒を飲み、議論した。偉そうなことも随分言ったが、それが今に繋がっているような気がする。

同じ業界には、日本郵船というライバル会社がある。売上、利益とも遥か遠い存在で、何をやっても追いつかないように思えた。ところが、二年前から状況が変わり、利益では当社が一位となり、二年続けて凌駕している。鎬を削る激しい競争に打ち勝ち、史上最高益を更新できた。これもライバルによって、商船三井が磨かれたお陰だと思う。

ライバルとは、本当に有難いものである。

ご挨拶

校長　佐藤健治

この四月、和田秀穂前校長が御退職なさいました後を受けて、松江北高校の校長を拝命いたしました。もとより、歴代の諸賢には比すべくもない未熟者でありますが、ただ幸いなことに、私は昭和五十一年四月から平成二年三月までの十四年間、国語教員として本校に勤務し、歴代の校長先生（もちろん松本幹彦校長先生にも）をはじめ多くの先輩に教員としてのあり方を教わり、育てていただきました。その間、創立百周年、百十周年の記念行事や双松の一本が枯れ「訣別・新生式典」が行われたことなど、鮮明に記憶しております。来年度は創立百三十周年の節目を迎える本校にあって、双松会がこれまで営々として築いてこられた有形無形の優れた伝統に立脚しつつ、社会の変化に対応できる教育を実践していく覚悟を新たにしているところであります。

今年三月の進路状況を見ますと、三年生が一クラス減の九学級となったにもかかわらず、国公立大学合格者が三〇三名、東京大学をはじめとする旧帝大と一橋大学、東京工業大学を合わせた難関大学の合格者が六九名など、素晴らしい結果を出しています。

部活動においては、県総体で男女総合三連覇、一九回目の優勝を成し遂げてくれました。総合優勝はとても無理という下馬評をくつがえし、二位の大社高校に五五点、三位の松江南高校には一〇七点差の二三八点という歴代最高の得点をあげる力とは何か、感激とともに戦慄すら覚えました。申すまでもなく生徒諸君の優れた資質と真摯な努力、その努力を結晶させようという強い意志、心の絆で結ばれた団結力などの総和でありましょう。それこそが伝統と言われているものでありましょう。と同時に、私はそこまで子どもたちを高めることのできる環境、即ち保護者の方々の力、教職員の熱意を強く感じます。伝統はまさしく脈々と息づき、そして新たな鼓動となっています。

今、本校にも新たな時代の波が押し寄せようとしています。少子化は更なる学級減を呼び、今春入学生は八クラスとなってしまいました。平成十九年度には二十四クラス、ついに千人を割る規模となります。また、県教育委員会において通学区の問題が論じられており、中学校卒業生の学力低下の問題とともに地域の大きな関心事ともなっております。こうした時代だからこそ不易と流行をしっかり見つめ、質実剛健、文武両道を校是とし、「知・情・意」の同化した人間を育てなければならないと強く決意しております。何とぞ双松会の皆様方には御助力、御支援賜りますよう重ねてお願い申し上げ、御挨拶といたします。

事務局だより

一、同窓会名簿「双松」の発行について

本年度発行予定でした同窓会名簿は、「個人情報保護法」の施行や市町村合併に伴う住所表示の変更等への対応で大幅な予定変更を余儀なくされ、平成十八年十一月の創立百三十周年記念式典にあわせて発行することとなりました。皆さまには大変迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、今後の調査等に関しましてご協力いただきますよう、お願い申し上げます。なお、詳細については、同封の「同窓会名簿『双松』の発行について」をご覧ください。

二、会報の発送について

経費節減のために、昨年から会報を一世帯三人までは一通を送付することでお願いしていますが、本年は同窓会名簿の調査はがき発送も兼ねたものとなりますので、会員一人に対し一通を送付いたします。

三、各地区双松会の動向について

○東京双松会
新会長　寺津　博善（第1期）
総会日程
平成17年11月26日(土)13時～
会場　国際ビル八階
日本倶楽部

○近畿双松会
総会日程
平成17年11月27日(日)14時～
会場　梅田阪神百貨店11階
グリーンルーム

○米子双松会
新会長　坂本　節夫（第1期）
総会日程
平成18年2月（詳細は未定）

四、会報編集助成金のお礼

会報の発行に対して本年度助成金をお送りいただいた方
本田千穂様　松本好寿様
ありがとうございました。

各期だより

松江高校五期の五十周年記念同窓会開く

一九五四年（昭和二十九年）私たち松高五期生は青雲の志を抱いて巣立ち、昨年で早や五十年、恰度古稀を迎えました。昨年九月には県民会館で松江北高の在校生の皆さんに、豊橋からナノテクの松浦元男君（樹研㈱代表）が駈けつけ記念講演をしました。夜はむらくも会館に一四〇名の同窓生が集い久闊を悦び盛り上がりました。東京、近畿からも多数の帰省があり、全員が収まる撮影ができず、二班に分かれて記念写真となりました。翌日は出雲大社へ参拝、楽しいバスの旅でした。今年五月は近畿松五会が新都ホテルに集い、翌日は東福寺宗務総長の青木謙整君のご尽力で平安神宮での特別参拝、貴賓室での昼食、神妙な時間が流れました。続いてこの十月には東京松五会がセンチュリー・ハイアットで今岡義治君（元島根県副知事）の講演。夜は箱根ハイランド・ホテル泊の楽しい企画です。長寿時代とは言え一五%を超える友が早逝しました。「邯鄲の夢」を想いながら、醒める夢なら仕合わせ、夢から醒めないことになったらと恐懼するこの頃です。（H生）

北高第36期生卒業20周年同窓会に寄せて

我々北高36期生は、昭和六十年三月に卒業し、今年の春でちょうど卒業二十周年を迎え、本年一月二日に記念同窓会を開催しました。

今までの同窓会の出席者数は、十周年（平成七年）以降五年ごとに、一一二名→四一名→七六名という波瀾万丈な変遷を辿ってきました。そんな中、皆勤賞である吉野富雄先生と金本晋也先生には頭が下がる思いです。人を集めるのは大変ですが、それでも「同窓会をきっかけに結婚した」という便りを聞くと、幹事冥利に尽きます。

次は二十五周年（平成二十二年）でお会いしましょう。

（クラス幹事募集中！）

（田辺）

松江高校7期（S31卒）卒業五十周年記念同窓会開催のご案内

(1)期日

平成十八年五月十七日(水)

(2)会場

ホテル一畑

卒業して半世紀、ここらで一寸一休み。エネルギーを補給して残りの人生頑張りましょう。まだ老け込む歳ではない。

尚、詳細は一次案内（年賀状）、二次案内（三月頃）にてお知らせいたします。（幹事　吉野）

川津校舎の跡地は今

第18期（昭和42年卒）

奥原啓三

新世紀になって間もなく、二期後輩のN君から、

「先輩、私たちが通った川津校舎の跡地に記念碑が建っているのをご存知ですか」

「いや、知らないよ」

「最近、分かったのですが、県立プールの敷地内の一角にあります。見に行きますか」

「うん。せっかくだ。先輩を誘ってみよう」

私は二年先輩であるK氏に携帯を入れた。

＊

やがて、私たち三人は県立プールの東通用門に向かった。

門外からN君が示す方向を見たK先輩と私は愕然とした。二人が初めて見る川津校舎の跡地の碑は、雑草の生い茂る叢の中に建っていた。

三人は門扉を飛び越えると大きな記念碑の前に進んだ。しかし、草が覆っているので碑文が読み辛い。草々を掻き分けてから、碑文を読んだ。

『若かりし日の　わが夢ぞ
そこに　狭霧ふ』

その右下には、

『松江北高校跡地之碑』

これが初めて見る、跡地の記念碑だった。

私たちが青春時代の一時を過ごした川津校舎の跡地に、一体いつ、どなたたちがこの碑を建てたのだろうか。私が裏手に廻って草を踏み倒していると、二人がやって来た。

碑の裏面には、

『昭和二十四年、南北両校舎に分かれて発足した松江高校は、翌二十五年秋、ここ南校舎の地を校地と定めた。松江高女の故地である。三十六年、松江南高校設立とともに、名を北高校と改め、五十三年秋、北部土地区画整理事業のため、松江中学の故地赤山に居を移したが、その間、ここに学びこの地より巣立てる一万四千有余名、まことに若きいのち燃え、夢ふくらむ、青春蕩揺の舞台であった。

いま、学舎の姿なく、校地また昔日の面影をとどめずといえども、此処に託された若者たちの三春は、永くこの地にとどまって去ることはない。ここに碑一基を建立し、これが記念とする。

昭和五十三年五月

島根県立松江北高等学校

文　兼折　博』

この碑の左手前方に、旧制松江中学校の校長先生だった西村房太郎氏の揮毫による、『質実剛健』の碑も移されていたが、これも叢の中だった。

私が北高三年生だった昭和四十一年五月、創立九十周年記念の行事が盛大に催された。

その時の記念行事の一つがこの碑の建立だった。確か、川津校舎の正面玄関前辺りの校地に建立されていたはずだ。

それから十二年後、ここに移転されたのか。約三十五年ぶりに見る碑に、懐かしさを感じたが、どうも、しっくりしない。

「碑は建てたけれども、後は野となれ山となれだね」

「同感。情けないですね」

「いや、腹が立つじゃないか」

「碑の建立に関係した方々に毎年、草刈りをしてもらおう」

そんなことを言いながら、三人は東側の門扉を飛び越え、夕刻の国道四八五号の歩道に降りた。

＊

この夏、川津校舎について一筆書いて欲しいとの依頼があり、『跡地之碑』を一人で訪れた。

今の県立プールは上乃木の総合運動公園内に移転した。

移った後の敷地の中にある建造物は役割を終え、粛々と横たわっている。

一万四千余りの卒業生の内、一体、何人が『跡地之碑』の存在を知っているだろうか。

私は草を掻き分けてから、『跡地之碑』に深く刻まれた一字一句を手帳に書写した。

＊　＊

川津校舎跡地碑

平成十七年度役員会報告

本年度の役員会は七月二十三日(土)午後四時から、「サンラポーむらくも」にて四九人の役員の参加を得て開催された。慣例により、松本会長を議長に次の議題について熱心な審議が行われた。なお、審議終了後六時からは同会場にて懇親会も開催され盛会となった。

一、平成十六年度会務報告並びに会計決算報告
二、平成十七年度会務計画並びに予算（案）審議
三、平成十八年度発行予定の同窓会名簿について
四、平成十八年度発行「会報」の編集・発送について
五、新生の双松の育成について
六、創立百三十周年記念式典の開催について
七、その他　広島双松会の発足への協力依頼等

以上の議題については原案通り承認された。

○創立百三十周年記念式典についての概略は次の通り。

日時　平成18年11月18日(土)
15時～19時
会場　ホテル一畑（松江市）
内容　記念式典・記念講演・アトラクション・懇親会

○会報の発行について、昨年度の発行の際に不手際があって多少の遅れが生じたので、今後そういったことがないように努めるとのコメントがあった。

○同窓会名簿の発行については要望等が二、三出され、名簿担当の常任幹事が今後研究していくこととなった。詳細については同封の「双松会名簿『双松』の発行について」を参照。

平成16年度　会報編集助成金会計決算書

収入総額	2,979,012円
支出総額	1,400,000円
差引残額	1,579,012円

【収入】

費目	金額	備考
繰越金	2,978,900円	15年度振り込み分
利息	112円	16年度振り込み分
合計	2,979,012円	

【支出】

	金額	備考
本会計へ繰り入れ	1,400,000円	16年度発行会報印刷補助金として
合計	1,400,000円	

平成17年度　双松会会計予算書

【収入】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減（△）	備考
入会金	2,693,200	2,832,400	△139,200	全日制　延べ　12,216人×200円 (1,018名×12ケ月) 通信制　100人×2,500円
繰越金	748,716	388,346	360,370	平成16年度からの繰越金
繰入金	1,400,000	1,400,000	0	会報編集助成金会計より
雑収入	8,084	9,254	△1,170	預金利息など
合計	4,850,000	4,630,000	220,000	

【支出】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減（△）	備考
会議費	200,000	200,000	0	常任理事会、役員会、各地総会補助
会報発行費	3,300,000	3,200,000	100,000	会報印刷・発送代
通信事務費	100,000	60,000	40,000	役員会案内等
記念品費	500,000	500,000	0	卒業記念品代、卒業証書用丸筒代
旅費	350,000	330,000	20,000	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	50,000	0	慶弔費等
予備費	300,000	240,000	60,000	
合計	4,850,000	4,630,000	220,000	

平成16年度　双松会会計決算書

収入総額	4,710,560
支出総額	3,961,844
差引残高	748,716

【収入】

費目	予算額	決算額	増減（△）	備考
入会金	2,832,400	2,922,200	89,800	全日制　延べ　12,811人×200円 通信制　144人×2,500円
繰越金	388,346	388,346	0	平成15年度からの繰越金
繰入金	1,400,000	1,400,000	0	会報編集助成金会計より
雑収入	9,254	14	△9,240	預金利息
合計	4,630,000	4,710,560	80,560	

【支出】

費目	予算額	決算額	残額（△）	備考
会議費	200,000	148,255	51,745	常任理事会、役員会、各地総会補助
会報発行費	3,200,000	3,023,156	176,844	会報印刷・発送代
通信事務費	60,000	36,380	23,620	役員会案内等
記念品費	500,000	346,800	153,200	マグカップ代、卒業証書用丸筒代
旅費	330,000	334,286	△4,286	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	22,967	27,033	慶弔費等
予備費	240,000	0	240,000	
合計	4,630,000	3,961,844	668,156	

松江北高ホームページのリニューアルのお知らせ

北高のホームページについてはこれまで多くの指摘を受けていましたが、この九月から大幅にリニューアルすることになりました。従来に比べ、内容の多さ、情報の新しさ、利用のし易さ、いずれをとってもかなり充実したものとなります。つきましては、双松会の会員の方々にも是非ご覧頂き、後輩の活躍や学校の状況等を知っていただければと思い、お知らせいたします。

アドレス
http://www.matsuekita.ed.jp/

北高ホームページのトップページ

平成十七年度 通信制役員会報告

平成十七年度役員会が次のように行われました。

日時　平成十七年七月二日(土)　十四時～十七時

場所　松江市殿町「サンラポーむらくも」

出席　役員三一名、学校側四名（佐藤校長、尾崎教頭、土江、細木各先生）

議事　①平成十六年度会務・決算・監査報告②平成十七年度会務計画案、予算案③創立五十周年記念事業案。以上について、原案どおり了承されました。

通信制同窓会　平成16年度決算報告

【収入】

費目	小分類	予算額	決算額	摘要
繰越	繰越	348,403	348,403	
	計	348,403	348,403	
会費	新入会費	480,000	432,000	@3,000×144名
	計	480,000	432,000	
雑収入	雑収入	7	4	預金利息
	計	7	4	
合計		828,410	780,407	

【支出】

費目	小分類	予算額	決算額	摘要
会議費	役員会費	50,000	86,138	7月役員会34名
	地域会議費	50,000	10,000	3月石西地域会
	計	100,000	96,138	
事業費	事業費	100,000	0	
	計	100,000	0	
事務費	事務費	10,000	3,400	役員会案内返信用葉書
	計	10,000	3,400	
雑費	雑費	400,000	293,080	全国定通大会参加補助費48,000（3,000×16名） 卒業記念品マグカップ122,400　卒業証書筒22,680 バスケットユニホーム代補助100,000
	計	400,000	293,080	
予備費	予備費	218,410	100,000	特別会計（積立金）へ
	計	218,410	100,000	
合計		828,410	492,618	

差し引き　780,407－492,618＝287,789は次年度へ繰り越し

【特別会計（積立金）】

項目	収入	支出	摘要
平成15年度より繰越	695,404	-	
一般会計より繰入	100,000	-	将来の記念事業のための積み立て
預金利息	169	-	定期預金169　普通預金0
合計	795,573	定期預金619,580円　普通預金175,993円（鳥取銀行松江北支店）	

通信制同窓会　平成17年度予算書

【収入】

費目	小分類	前年度予算額	本年度予算額	摘要
繰越	繰越	348,403	287,789	
	計	348,403	287,789	
会費	新入会費	480,000	450,000	卒業予定150名
	計	480,000	450,000	
雑収入	雑収入	7	1	
	計	7	1	
合計		828,410	737,790	

【支出】

費目	小分類	前年度予算額	本年度予算額	摘要
会議費	役員会費	50,000	50,000	
	地域会議費	50,000	50,000	
	計	100,000	100,000	
事業費	事業費	100,000	100,000	
	計	100,000	100,000	
事務費	事務費	10,000	10,000	
	計	10,000	10,000	
雑費	雑費	400,000	400,000	全国定通体育大会補助他
	計	400,000	400,000	（3,000×25名）
予備費	予備費	218,410	127,790	特別会計（積立金）へ
	計	218,410	127,790	100,000
合計		828,410	737,790	

特別会計（積立金）

	収入	支出
平成16年度より繰越	795,573	795,573
一般会計より	100,000	100,000
合計	895,573	895,573

50周年記念事業へ特別支出

通信制課程創立50周年 記念事業のご案内

一、記念式典等

期日　平成17年11月20日(日)

場所　サンラポーむらくも　松江市殿町三六九　TEL二一一－二六七〇

・記念式典　14時～14時50分

・記念講演会　15時～16時30分

・記念祝賀会　17時～19時

会費制　六千円

二、創立50周年記念誌発刊　平成17年度中

（実費にて販売予定、予約等は後日連絡します。）

なお、詳細は別紙に掲載しております。

参加ご希望の方は別紙申込方法にて直接学校まで連絡ください。

全国定通体育大会報告

八月に行われました各競技の結果は次のとおりでした。剣道男子個人、陸上女子砲丸投で準優勝他健闘しました。

○男子バスケット（東京体育館）

2回戦　松江北79－67長野工業（長野）

3回戦　松江北61－71新宿山吹（東京）

○女子バレーボール（駒沢体育館）

1回戦　松江北2－0日田（大分）

2回戦　松江北0－2桐ヶ丘（東京）

○陸上（国立競技場）

男400mR　島根選抜　予選敗退

男100m　永瀬亮太　準決敗退

女800m　石倉亜衣　準決敗退

女砲丸投　井上佳奈　準優勝

男200m　藤原基貴　準決敗退

男200m　永瀬亮太　準決敗退

○卓球（駒沢体育館）

男子個人　西川靖晃　2回戦　1－3清水（岩国商業）（山口）

伊藤　聖　4回戦　ベスト32　0－3藪内（八洲学園）（大阪）

○剣道（日本武道館）

男子個人　龍澤　潤　3回戦　ベスト32　－ド帯谷（科学技術学園）（東京）

來間洋紀　準優勝　－メ小池（東海大付属望星）（東京）

○バドミントン（小田原アリーナ）

女子団体　1回戦　島根選抜0－3滋賀選抜

男子個人　吉廻仁志　1回戦　1－2舘下（黒沢尻工業）（岩手）

女子個人　恵比須愛里　1回戦　0－2谷井（雄峰）（富山）

山崎恵利奈　1回戦　0－2曾田（新宿山吹）（東京）

北高生の活躍

第四三回島根県高等学校総合体育大会結果報告

五月二十七日(金)から六月五日(日)まで県内各地を会場に県総体が繰り広げられました。生徒諸君の奮闘により三年連続一九回目の男女総合優勝（男女ともAグループ一位の二年連続完全優勝）を果たしました。

◆総合成績

〈男女総合Aグループ〉

1位　松江北高等学校

2位　大社高等学校

3位　松江南高等学校

〈男女別Aグループ〉

男子　1位　松江北高等学校

2位　松江工業高等学校

3位　大社高等学校

女子　1位　松江北高等学校

2位　大社高等学校

3位　出雲高等学校

全国高校総体結果報告

今年のインターハイは千葉県を中心に開催されました。陸上の清水・中山両選手の入賞を筆頭として北高生が活躍しました。（　）内の数字は学年。

〈陸上部〉

三段跳び　5位　清水　悠（3）

100mH　4位　中山ゆかり（2）

〈ボート部〉

男子ダブルスカル　高橋侑太郎（3）・内田佳孝（3）

予選F組5着→敗者復活へ

敗復A組3着→準々決勝6着

女子シングルスカル　高田万梨子（3）

予選C組2着→準々決勝A組2着→準決勝A組4着

女子ダブルスカル　鈴木千恵子（3）・川本佑美（2）

予選B組4着→敗者復活へ

敗復D組1着→準々決勝　A組6着

女子舵手付クオドルプル　今岡歩美（2）・安達理沙（3）・安達静花（2）・北沢碧（2）・齋藤舞（2）

予選F組3着→敗者復活へ

敗復C組1着→準々決勝D組4着

〈登山部〉

男子団体（A隊）　山根匠人（2）・岡本悠介（2）・

古志野豪（2）・村田潤一（2）

〈テニス部〉

男子団体

松江北1―2城南（徳島）

1回戦敗退

男子シングルス

飯沼拓也（2）

8―5齋藤（群馬：高崎工業）

8―1藤野（大分：別府青山）

2―8佐野（兵庫：明石城西）

3回戦進出、ベスト32

日高哲平（3）

8―5岸田（滋賀：堅田）

4―8有松（千葉：東京学館浦安）

2回戦進出

男子ダブルス

溝山智樹（3）・飯沼

8―5宗像・宗像（福島：原町）

0―8池野・小野（神奈川：湘南工科大付）

2回戦進出

女子シングルス

山田南美（2）

1―8川村（共栄学園：東京）

女子ダブルス

山田・大野華鈴（2）

2―8太田・伊藤（粟東：滋賀）

〈バドミントン部〉

男子

団体　1回戦　松江北3―1高知東

2回戦　松江北2―3岡崎城西

個人シングルス

玄行友也（3）

0―2岩崎（星陵：静岡）

角田碧（1）

2―0村上（新田：愛媛）

0―2上田（埼玉栄：埼玉）

個人ダブルス

玄行・角田

2―0江頭・吉村（添上：奈良）

0―2大嶋・本田（埼玉栄：埼玉）

女子

個人シングルス

高橋佳世（3）

2―0小原（赤穂：長野）

0―2藤井（青森山田：青森）

全国高等学校総合文化祭に出場して

箏曲部顧問　土江　聖美（第36期）

今春の人事異動で、母校である本校に赴任し、箏曲部の顧問を拝命しました。その三ヶ月前の正月に北高卒業二十周年の同窓会があり、そのとき浜田に住んでいた私は、友人に、松江地区の高校へ転勤の希望をしていることを話したりしていました。でも、まさか母校に転勤することになろうとは思ってもみませんでした。

私は北高在学中、合唱部に所属していて、第八回全国高総文祭岐阜大会（合唱部門）に生徒として出場したことがあったので、高総文祭のことはよく知っていました。しかし、日にちが経つにつれだんだんと不安になってきました。それは、宿泊や航空券の手配といった引率の心配のほか、全国高総文祭の日本音楽部門が全国コンクールを兼ねているということがあったからです。ただの発表会ではなかったのです。改めて事の重大さを感じました。

七月二十八日、高総文祭本番の日がやってきました。会場の黒石市民文化会館は熱気が溢れていました。出場団体は五十四校にのぼり、どの学校も闘志が漲っています。私が演奏するわけではありませんが、朝からとても緊張していました。一方、部員たちは演奏前、「今日本番だにかーに、全然緊張しちょらんがー。」とのことで、さっそく北高生の大物ぶりを発揮していました。私の心配は無用となりました。

そして演奏のときがやってきました。本校の演奏は二十番目で、ちょうど中盤でした。琴のカバーをはずし、柱（じ）をたてて、調絃、舞台袖待機となりました。だんだんと緊張感が高まり、いよいよ本番です。演奏する曲は、吉崎克彦作曲『波の戯れ』です。

琴の演奏には指揮がありません。全員が心をひとつにして演奏します。心をひとつにすることで絃の音が合い、すばらしい演奏になるのです。私は横で見ていることしかできませんでしたが、本番の演奏は今まで演奏してきた中で一番の出来だったと思います。全員の心がひとつになり、練習ではなかなか合わず、苦労していた箇所もピッタリと揃い、とても感動しました。残念ながら上位入賞は果たせませんでしたが、指導者の林世津先生からは最高の演奏だったとお褒めの言葉をいただき、部員たちは大満足でした。思い出に残る夏になったと思います。

青森から帰ってきた部員たちは、さっそく来年の京都大会に向けての練習を始めました。再来年はいよいよ地元島根県で全国高総文祭が開催されます。地元開催に向け、箏曲部が益々発展することを願ってやみません。

第29回全国高等学校総合文化祭　青森大会　日本音楽部門

平成17年7月28・29日　黒石市民文化会館

第57回　学園祭

「彩（いろど）～虹のように・個性の融合～」

平成17年度
前期生徒会長
金森　綾子

今年の学園祭は九月一日～三日に開催されました。一日からすぐに本番ということもあって、今年は例年より二学期が少し早く始まりましたが、全校生徒不平を言うこともなく、むしろ喜々として学園祭準備、そして本番へと挑みました。

一日～二日に行われた文化祭は、主に一年のフォーラム、二年のR出し物、そして文化部展示・発表だったのですが、そのどれもが素晴らしい出来でした。これまで積み上げてきたものが全て発揮できていたのではないか、と私は思います。

三日に行われた体育祭は昨年とは違い、青空の下で行うことができました。事前アンケートに、「昨年は競技が少なかったので、今年は多くして欲しい」との声がたくさんあったので、それが叶って良かったです。三年生のページェントの出来も素晴らしかったです。

この学園祭を通して、私は北高生一人ひとりが普段の勉強では身に付けることのできない"何か"を手に入れることができたのではないか、と思います。

本年度の進路状況

今春の進路状況について報告させていただきます。

文部科学省が平成十一年に改訂告示した学習指導要領最後の入試となり、『節目の入試』となりました。自らの志を高らかに掲げながらも、浪人すれば新学習指導要領に基づく来年度入試へ対応せねばならないという不安からか、結果背水の陣の様相をどことなく漂わせる入試となりました。

少子化に伴う受験人口減少の影響により大学入試センター試験、国公立大学の個別学力試験、私立大学入試は、それぞれ三年連続大幅に志望者数を減らす結果となりました。センター試験では志望者数が九年ぶりに五七万人を割り込みました。

センター試験の平均点は、五教科七科目文系では昨年並み、理系ではアップしたものの、科目によっては高得点が難しく、慎重な出願が必要となりました。しかし、難関国立大学や医学部の志望者数に大きな変動はなく例年通りの激戦でした。

国公立大学は独立法人化し、私立大学を含め質の高い研究・教育を模索し、高等教育環境そのものにおいて競争の原理が鮮明となりました。さらに、平成二十年度からは、全大学の定員総数が受験者総数を上回り、「全入時代」となります。生徒の入学したい大学は人気が集中し、大学の役割も分化し、研究・教育環境そのものが構造的に二極化していくと考えられ、入試制度を含め大きな変革期を迎えています。このような入試状況の中で、卒業生諸君は、高い志を掲げ、狼狽えることなく夢の実現に邁進した先輩方の伝統を受け継ぎ、最大限の努力をしてまいりました。

肉体的にも精神的にもその道で苦労しながら目標を極めようとした者は、必ず学びの道も切り開く力を持つという「文武両道」を旗印に、学校一丸となって昨年度の県総体は男女とも優勝し男女総合完全優勝二連覇を達成しました。特に、昨年度は全国高校総体「中国・04総体」の主催県として県をあげて選手育成・強化に取り組み、本校の選手も県代表として全国の強豪と熱戦を繰り広げ、私たちは「君の輝く一瞬が今伝説となる」青春の一ページの目撃者となり、感動を分かち合いました。その一方で、「夏を制する者は受験を制す」と言いながら、八月の全国総体会期中は例年通りの夏季演習が実施できず、授業で対応すると同時に、自らが主体的に学ぶことを問われた夏でもありました。学園祭後は「鮮やかな切り換え」を集団として主体的に果たし、熱気を帯びた真剣な学びの姿勢に頼もしさを感じました。

進学状況については表の通りです。生徒数減となり平成元年度以来の現役九クラスで臨む入試となりました。

東京大学合格者数は前年度同数の六名、京都大学は前年より三名増の六名、旧七帝大及び一橋・東京工業大学を合わせた合格者数は、大阪大学の一七名を筆頭に、合計六九名で平成に入り最高の合格者数となりました。特筆すべきは、国立大学前期合格者が二一二名（全国立大合格者の八三％、前年より二二名増）となり、多くの諸君が第一志望での合格をしたことです。ただし、国立大学医学部の合格者は四名と少なく、厳しい結果でした。

私立大学では早稲田大学六名、慶応義塾大学七名とやや少なかったものの、関関同立一二二名（前年度九一名）と難関大学にも多数合格しました。また、不景気でありながら、旧課程入試最後の影響からか、私立大学の複数校受験者、複数合格者が顕在化しました。就職への不安も相まって資格指向の傾向にあり、特に、幼児教育・保育・栄養系・医療系の志望は高く激戦となっています。

今年も「文武両道」「質実剛健」を日々実践、努力した諸君が、難関大学をはじめとする様々な大学に合格しました。中には三年生の十月まで全国大会に出場し、合格を手にした諸君もいます。部活動との両立は過酷で、大学入学後他校出身者に話をすると驚かれると卒業生は口々に言います。三年間の制約された期間の中で、自分の可能性を追求し、日々の苦しさを乗り越え、固い信念と継続する心の持久力が生徒一人ひとりの資質を磨き、伸びよう高めようと切磋琢磨する若人達の気質が今もなお脈々と赤山に受け継がれていることを実感した次第です。日々直面する壁を生徒自身が乗り越え、着実に自分の能力を高め、精神的にも肉体的にも本気で自己を錬成することを経験させ、生き方を模索させる指導をより充実させたいと考えています。

先輩の皆様方のご支援・ご協力のほど何卒お願いいたします。

追伸　進路指導部ではOB・OGの方々の生徒対象の講演・講義を検討中です。情報がございましたら、ご提供のほどお願いいたします。

進路状況

平成16年度学校種別合格状況（平成17年3月集計）

卒業生	平成15年3月			平成16年3月			平成17年3月		
	現役	卒生	計	現役	卒生	計	現役	卒生	計
国立大学	208	71	279	179	75	254	198	68	266
公立大学	39	8	47	40	10	50	27	10	37
私立大学	285	132	417	256	129	385	349	207	556
短期大学	56	4	60	60	5	65	45	3	48
専門学校等	29	4	33	24		24	39	4	43
就職	2		2	1		1	1		1
合計	619	219	838	560	219	779	659	292	951
クラス数	10クラス			10クラス			9クラス		

編集後記

「双松会会報」第二十六号をお届けします。今年は、北高の外部の会員の方に編集に参加いただきました。一昨年から紙面を変更し「双松会会報」も少しずつ変化しつつあります。会員の皆様方に親しまれる会報を目指し、改良を加えていきたいと考えています。皆様の忌憚のないご意見をお待ちいたしております。

紙面に掲載しましたように、来年は双松会一三〇周年記念式典も予定されております。それに合わせた企画も動きつつあり、来年の会報ではそれらをお知らせする予定です。

母校に帰って、十年が過ぎようとしています。何年か振りに、「双松会会報」の担当をさせていただきました。が、途中からは、T・M氏にすべてお任せという何とも申し訳のないことになってしまいました。ここにお詫び申し上げます。（K・T）